



2025年1月31日(金)
余市養護学校しりべし学園分校
文責：研究部 亘理
第4号

3学期がスタートし、年度末に向けてまとめの学習が行われていることと思います。2学期には各学部の研究授業が行われました。これまでの研修の内容も合わせ、参考にしながら今後の授業作りについて考えていけたら良いですね。本号では、高等部の研究授業について振り返ります。

公開授業「体育」E球技～バスケットボール～



9月に行われた公開授業では、ICTを活用した実践的な授業づくりを主眼とし、高等部近藤先生が、保健体育科のE球技「バスケットボール」の単元において、タブレット端末による「AIスマートコーチ」アプリを使用した授業を行いました。自分のフォームと理想のフォームをタブレット端末の画面内で見比べることで視覚的にわかりやすく改善点が発見することができることから、生徒たちが主体的に学ぶ姿を見せてくれました。

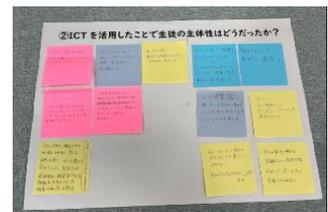
運動することや、球技そのものに興味を持ちづらい実態の生徒でも、ICTに興味を沸いて主体的に授業に参加することができたり、教師の説明を聞いたり、見本を見るきっかけとなったり、自分の動きのマッチ度(得点)を見て楽しみながら活動することができることから、今回の研究授業は、ICTを活用したことで生徒たちの主体性を大きく高め、楽しみながら理解が図れる授業であったと思います。

使用アプリ「AIスマートコーチ」

①手本の動画と撮影した動画を比較する



②マッチ度解析で、手本との違いを明確にし、フォームを改善する



課題(授業検討会より)

- 「撮影すること」「自分や友達を見て楽しむこと」など、目的が『ICTを活用すること』にすり替わらないように注意しなければいけない。
- 「自分の得点(マッチ度)にこだわってしまう」ことで目的を忘れてしまわないように気をつけなければいけない。
- 本時で学習したフリースローの動きは、実際の試合での場面と異なる。どう実践に応用していくのか。
- 撮影や鑑賞、解析をしている時間が長くなり、子どもたちの運動量や活動量が減ってしまう。
- 基礎をしっかりと学ばせる時間、練習する時間、鑑賞する時間など、ねらいを明確に設定していく必要がある。
- 撮影に教師の人手と時間を要しているため、工夫が必要。
- 事前にルールなどを明確に提示する必要がある。

授業検討会を受けての改善の方向性について

【授業者近藤先生より】

これまでの体育の授業は、なるべく多く体を動かすことを重視していました。しかし、スポーツの技術的な面を、仲間とともに高め合う学習をしていきたいと考え、アプリを使ったフォームの練習を取り扱うに至りました。撮影やフォームのチェックをする時間が増えるため、運動量は減りますが、スポーツの技術的な面を高めるために、フォームを客観的に見て、課題を改善していく過程を経ることはできたかと思います。今後は、アプリを使う場面を考え、得点に捉われすぎない工夫や運動量を確保しつつ、単元が終わったときに、生徒達が「何ができるようになったか」「どのように学んだか」を答えることができるよう、計画を立てていきたいと思えます。

